

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・それぞれの児童の実態に合わせた指導を行うことができたため、少人数指導を行うことが効果的であった。
- ・算数的活動を取り入れることで、日常生活と算数との関わりにも目を向けさせ、関心を高めることができた。
- ・「数と計算」の領域では、線分図や数直線を使うことが正しい立式につながった。

(2) 課題

- ・文章題から聞かれていることを正しく読み取り、式や計算を考えて解くことや、表やグラフから読み取ったことを記述で答える問題に課題が見られる。
- ・第4学年「表とぼうグラフ」の領域においては、表やグラフから情報を読み取って答える記述問題、第5学年「データの活用」の領域においては、特に折れ線グラフについての知識・技能、及び思考・判断・表現に課題が見られた。
- ・第6学年「割合」の領域で、もとにする量や比べられる量を読み取り、立式することに課題がある。また、割合や百分率・歩合を聞かれている問題では、どのように答えるかの理解も不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」 目標値よりも13ポイント、全国と区の平均正答率よりも6ポイント以上上回っている。 ○「思考・判断・表現」 目標値の正答率から20ポイントも上回っており、良好と言える。しかし、観点別正答率では一番低い結果になっているため、この点が課題であると考えられる。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも上回っている。 	/	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」 目標値、区・全国の平 	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」 目標値、区・全国の平 	/

	<p>均正答率を上回り、とても良好と言える。全体的な平均正答率は、目標値より13ポイント以上上回っているため、知識・技能の力はとても高いといえる。</p> <p>○「思考・表現・判断」 全ての問題において、目標値の正答率から10ポイント以上上回っており、とても良好と言える。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも上回っているため、概ね良好と言える。しかし、グラフを読み取る問題では目標値を下回っている項目があったため、さらなる向上が求められると考える。</p>	<p>均正答率を上回り、良好と言える。特に目標値と比べると14ポイント以上上回っているため、知識・技能の力はとても高いと言える。</p> <p>○「思考・表現・判断」 目標値の正答率から22ポイント以上上回っており、良好と言える。また、区や全国の平均正答率と比較しても、15ポイント以上上回っていた。しかし、3観点の中では一番低いことから、ここが課題であると考えられる。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも上回っているため、概ね良好と言える。しかし、ポイント差では12ポイント程度であり、3観点の中では少ない。さらなる向上が求められると考えられる。</p>	
<p>第6学年</p>	<p>○「知識・技能」 ほとんどの領域で目標値、区・全国の平均正答率を10ポイント以上上回り、良好と言える。「整数のなかま分け」においては、倍数についての理解のみ目標値を1.4ポイント下回っている</p> <p>○「思考・判断・表現」 どの領域も、目標値、区・全国の平均正答率を10ポイント以上、上回り、良好と言える。しかし、「割合」「面</p>	<p>○「知識・技能」 目標値、区・全国の平均正答率を上回り、良好と言える。特に目標値と比べると14ポイント以上上回っているため、知識・技能の力はとても高いと言える。</p> <p>○「思考・表現・判断」 目標値の正答率から22ポイント以上、上回っており、良好と言える。また、区や全国の平均正答率と比較しても、15ポイント以上上回っていた。しかし、3観</p>	<p>○「算数への関心・意欲・態度」 目標値・区、全国の平均正答率を上回り、良好と言える。前年度の校内平均正答率と比べても0.4ポイント下回ったが、全体的に興味関心は高いと言える。</p> <p>○「数学的な考え方」 目標値の平均正答率から20ポイント以上上回っており、良好と言える。また、区や全国の平均正答率や全国と比較しても10ポイント以上上回</p>

	<p>積」の記述問題と「多角形と円・合同」の問題では、正答率が半数程度で、この点が課題であると考えられる。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>目標値、区・全国の平均正答率を上回り、概ね良好と言える。</p>	<p>点の中では、目標値も低いものの一番低いことから、ここが課題であると考えられる。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」</p> <p>目標値、全国・区平均正答率よりも上回っているため、概ね良好と言える。しかし、ポイント差では12ポイント程度であり、3観点の中では少ない。さらなる向上が求められると考えられる。</p>	<p>っていた。一方で、4観点の中では一番低く、ここに課題があると考えられる。</p> <p>○「数量や図形についての技能」</p> <p>目標値よりも12ポイント、全国と区の平均正答率よりも5ポイント上回っている。</p> <p>○「数量や図形についての知識・理解」</p> <p>目標値、全国平均、区の平均正答率共に上回っており、概ね良好と言える。</p>
--	---	---	--

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、目標値を上回っているため概ね良好と言える。 「長さ・重さ」については、身近にある物の長さを推察して適切な単位を使う問題や、はかりに示された重さを読み取る問題は、前年度よりポイントが下回っているため、課題があると言える。 「円と球・三角形」では、球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める問題で、球の半径を使って問題を解くことに課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、目標値を上回っているため概ね良好と言える。 「表とぼうグラフ」については、棒グラフの有用性や特徴を説明する記述問題では、昨年度より 6.9 ポイント下回ったことから、「データの活用」に課題があると言える。 また、「かけ算」については、式の意味と場面を結び付けて考える問題の正答率が低かったことから、「数と計算」に課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、目標値を上回っているため概ね良好と言える。 「表とぼうグラフ」及び「かけ算」において、記述の問題では、昨年度より 2～6 ポイント下回っていることから課題があると言える。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの領域において、目標値を上回っているため概ね良好と言える。 「整数のなかま分け」において、倍数についての理解が目標値を1.4ポイント下回っており、課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、目標値を10ポイント以上大きく上回っており、良好と言える。 測定値が1つ増えた時の平均を求める問題では、昨年度より3ポイント下回っており、課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、目標値を10ポイント以上上回っており良好と言える。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「測定」の領域では、長さの測定が正確でなく、目盛りを正確に読み取ることが難しい。また、直線を実際に描くことにも課題が見られた。普段から定規を使うことで、手先の巧緻性を育む。 ・時計を正確に読めない児童、時計から何分後を読み取れない児童が多く見受けられる。日常から時刻を読み、何分前、何分後の感覚に慣れ親しませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域では、文章問題で立式のための手立てとなる、数や言葉に着目できるよう指導する。 ・問いかけ型の発問を増やし、「なぜ」「どうして」と思考する習慣をつける。 ・デジタル教科書や書画カメラ、タブレット端末等のICT危機を使い、視覚的な理解ができるような授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加法、減法、数の分解・合成などについて、他教科や生活の中で生かせる場面を探し、適宜応用させる。また、数のまとまりを意識させたり、グラフや表について他教科や生活の中で生かしたりすることで、適宜応用させる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「測定」の領域では、算数的活動を通して、身近にある物の長さや重さに関心を持ち、測定する経験を増やすことで、理解を深める。 ・「図形」の領域では、図形の観察や構成の特徴をつかむ活動を通して性質の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」では、表と棒グラフから読み取れるデータの特徴について考えたことを交流したり、説明したりする場を授業中に意図的・計画的に設ける。 ・「数と計算」の領域では、立式の際に、絵や図を用いて、立式の根拠をすることで、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えや自分の考えを書く活動を通して、思考を深めたり、表現力の向上につなげたりする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域では、整数や分数、小数を数直線上に表すことで、数量を正しく理解しながら考えることができるようにする。 ・「データの活用」では、身の回りにある様々な円グラフや帯グラフ（社会科や理科の教科書も活用）、折れ線グラフなどを比較し、その特徴や用い方に気づくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」では、目的に応じて集めたデータを分類整理する機会を授業内に設ける。「円グラフや帯グラフ・平均」では、グラフや表を読み取って交流したりする活動を、授業中に積極的に取り入れる。 ・「多角形と円・合同」では、多角形の性質について理解を深めるため、作図をするだけでなく、紙を折って切るこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域では、特に分数や小数の大きさや計算について、児童の実態や個人差に合わせたプリントを使うことで、自己の課題と向き合い、問題を解決していきけるようにする。 ・算数的活動を取り入れることで、日常生活と算数との関わりを感じられるようにし、学習への意欲を高める。

<p>・図形に関する問題では、図の性質を正確に理解し、作図することが苦手である。図形の構成要素や性質を考えられる作業を授業に積極的に取り入れる。また、分度器やコンパスを操作する活動時間を増やす。</p>	<p>とで図形を作るなどの活動を増やす。</p> <p>・「割合」の領域の中で、もとにする量や比べられる量を読み取り立式することに課題がある。また、割合や百分率・歩合を聞かれている問題では、どのように答えるかの理解も不十分である。復習する機会を設け、個人差に合わせたプリントやタブレットドリルを使い、繰り返し取り組ませることで習熟を図る。</p>	
---	---	--